

18

一地方医大における医学史教育の現状と試み

牧野 洋

浜松医科大学 麻酔・蘇生学講座

【はじめに】

地方単科医大である本学には医学史の専任教員が不在である為、医学史の系統的な教育を受けている訳ではないが麻酔科学史に興味を持ち活動を行っていた筆者が平成26年度より、医学史の講義を担当する事となった。筆者は麻酔科学の講義において麻酔科学史の講義を以前から行っており、その時の経験から、もともと医学史に興味がある医学生は少ない事を認識しており、少しでも授業に興味を持たせる方策を検討、実践した。

【方法】

平成26年度本学4年次医学科学生を対象とした。

講義に①視聴覚素材を使用する事②浜松の医療史を取り入れる事とした。視聴覚素材としては「ディスカバリーチャンネル「なぜ？」に挑んだ科学の歴史100医学編」を使用した。講義において古代から現代への医学史の流れを概説する中で重要と思われる項目数点においてビデオを供覧した。浜松の医療史に関しては、本学の所在地である浜松市における最初の人体解剖のエピソードや、浜松病院とヤマハの創業者山葉寅楠との関係などを講義した。

講義の最後にアンケート調査を実施した。アンケートの内容は5段階の有記名授業評価（私はこの授業で得るところが5：大変あった4：少しあった3：何とも言えない2：ほとんどない1：全くなし）、フリーコメントに加え、学生の歴史に対する知識や興味の程度を探る為、無記名で高校時代の社会科履修科目の調査及び、医学史上の偉人の名前を知っていたか否かについて調査した。調査対象の偉人は以下のとおりである。アスクレピオス、ヒポクラテス、ガレノス、ヴェサリウス、ハーバー、ラントシュタイナー、華岡青洲、レントゲン、ゼンメルワイス、リスター、ジェンナー

【結果】

講義中に供覧した1項目ごとのビデオは約2~3分と短く、学生の集中力は供覧中十分に維持されている様子であった。ビデオは講義の途中で間欠的に供覧された為、集中力の切れた学生の興味を再び惹きつける事にも役立った。アンケートにおいても講義の間、飽きずに楽しめたとのコメントが寄せられた。浜松の医療史に関しても、知らなかった学生がほとんどであり、身近な歴史に興味を沸いたとのコメントを多く得る事が出来た。

授業内容に対する評価は4.5/5点であった。

高校時代の社会科履修科目は、日本史13%、世界史17%、地理27%、現代社会13%、倫理19%、政治経済11%であった。

医学史上の偉人の知識は、知っていると多くの答えが得られた方から、レントゲン95%、ヒポクラテス94%、ジェンナー78%、華岡青洲63%、ヴェサリウス38%、ガレノス28%、ラントシュタイナー24%、アスクレピオス19%、ハーバー15%、リスター10%であった。

【考察】

アンケート結果からは医学史の講義に対し好意的な評点を得る事が出来たが、記名式のアンケートであり、点数はかなり甘めである事が予想される。医学部においては、高校の授業で歴史を選択する学生は少ない事を予想していたが、30%とやはり低かった。医学史上の偉人に対する知識も華岡青洲以下は50%に満たなかった。視聴覚素材の使用等の工夫により、もともと歴史に対する知識や興味の薄い学生にも一定の評価を得る事は出来たと言えるが、今後も医学史に興味を持ってもらえる様な授業内容を模索し続けて行く必要性を強く認識した。